

Introduction

The British Broadcasting Corporation (BBC) is internationally famous for the quality and impartiality of its news items. BBC reporters also strive to make the news both interesting and as easy to understand as possible.

We have chosen 15 items that we think would be of particular interest, and therefore motivating. They are all about Britain, and British events, so learners will gain an understanding of the life and culture of that country. Some stories are based in London and the Home Counties, but we also visit such varied places as Cornwall in the South West, Swansea University and Bodnant Garden in Wales, and Yorkshire and Newcastle in the North of England. Listeners will be interested in the different accents, some of which are very strong.

The book covers such topics as education, the environment, health, transport, and a number of social and political issues. Some aspects are also important in Japan, so there is the opportunity to discuss and compare the two countries. In fact, many topics are of international importance, as the world deals with the challenges posed by climate change, artificial intelligence, and migration.

As ever, new items of vocabulary are explained, and the notes (in Japanese) will explain any interesting points of grammar and usage of English. However the most important purpose of this book is that the learners should be able to engage in the subject matter, research, and then discuss together. With this in mind, we have developed discussion questions that would encourage them to relate these new discoveries with what is already familiar to them.

The videos are easily accessible online. This will make it easy for students to study by themselves out of class.

We hope you enjoy the book and the videos.

はじめに

本書は、実際に放送された BBC（英国放送協会）のニュースを教材として、ニュースキャスターや街頭インタビューを受ける native speaker が自然に話す英語に触れることで、学習者のリスニング力や語彙力といった英語力を伸ばすことを目的としています。同時に、イギリスや世界で起こっている出来事やその背景となる社会や文化についても学べるように工夫されています。

扱うトピックは、政治、環境、文化から、医療、科学技術、移民問題まで多岐にわたるものとし、できるだけ up to date でありつつも普遍的なものを選びました。学習する皆様の興味関心の幅を広げ、ご希望にお応えすることができれば幸いです。

前作に引き続き、ユニット内のコラムは、イギリス文化についての興味深い情報を増やして充実を図り、Questions も最初の Setting the Scene に始まり Follow Up にいたるまで、各ユニットで取り上げるニュースを順序良く掘り下げて理解が深まるように配慮しました。

本書を通じて、伝統と革新が共存する多民族国家イギリスが、4つの地域の独自性を保ちつつ、総体としてのイギリスらしさ（“Britishness”）を模索する今の姿を見ていただけたと思います。現在のイギリスは、物価の高騰による生活苦が続く中、2024年7月の総選挙によって14年ぶりの政権交代が行われ、新たな時代を迎えています。日本や世界に与える影響を考慮すると、今後もその動きから目が離せません。

このテキストを使って学習する皆様が、イギリスや世界の状況に興味を持ち、さらには、自分から英語ニュースに触れたり、英語で意見を述べたりと、ますます学習の場が広がっていきますことを、執筆者一同願っております。

最後に、BBC ニュースを教材として使うことを許可してくださいました BBC、編集に際してご尽力いただきました金星堂の戸田浩平様に、この場をお借りして心より感謝申し上げます。

テキストの特徴

普段の生活の中で、ニュースの英語に触れる機会はあまりないかもしれません。本テキストは、初めて英語でニュースを観る場合でも無理なく取り組めるよう、多種多様なアクティビティを用意しています。単語のチェックや内容確認、穴埋め、要約、ディスカッションを通して、段階を踏みながらニュースを理解できるような作りになっているので、達成感を感じることができるでしょう。

STARTING OFF

Setting the Scene

実際にニュースを観る前に、ニュースで扱われるトピックについて考えるためのセクションです。トピックについての学習を始めるにあたり、身近な問題としてトピックを捉えられるような問題を用意しました。ここで先にニュースに関する情報を整理しておけば、実際にニュースを観る際に理解が容易になります。ニュースで使われている単語や語句、または重要な概念をここで予習しておきましょう。

Building Language

ニュースの中で使われる重要単語を学びます。単に日本語の訳語を覚えるのではなく、英語での定義を通して、また同義語を覚えながら、単語の持つ意味を英語で理解することを目指します。また、これらの単語はディスカッションを行うときにもおそらく頻繁に使うことになる単語ですし、ニュースの核となる単語ですので、発音もしっかりと確認することが重要です。

WATCHING THE NEWS

Understanding Check 1

実際にニュースの中身を詳しく見ていく前に、どんな意見が交わされているのかを確認します。ここで具体的にニュースのイメージをつかむことが大事です。全体像を簡単にでも把握することで、ニュース理解の大きな助けとなります。

Understanding Check 2

ニュースに関する問題を解くことで、どれだけニュースを理解できたか確認することができます。間違えた箇所に関しては、なぜ間違えたのかをしっかりと分析し、内容を正確に把握しましょう。**Filling Gaps** のアクティビティを行ってから **Understanding Check 2** に取り組むのも効果的かもしれません。

Filling Gaps

ニュースの中で重要な意味を持つ単語を聞き取ります。何度も繰り返し聞き、正しい発音を意識します。それと同時に、単語を正しく書き取ることで、耳と手との両方の動きを通して重要単語を習得することを目指します。もし時間に余裕があれば、穴埋めの単語を実際に発音し、耳と手に加え口も使って覚えると効果的です。

MOVING ON

Making a Summary

この箇所は、これまで観てきたニュースをまとめる部分でもあり、かつ **Follow Up** に至る前の準備の段階でもあります。しっかりと内容を理解しているか、このアクティビティを通して確認しましょう。また、**Building Language** で出てきた単語を再度使っているため、単語の習熟の確認ができるようになっています。

Follow Up

ニュースと関連したトピックをいくつか挙げてあります。ニュースで得た知識、また単語を活かして話し合いを行うためのセクションです。トピックには、その場で話し合えるものと各自調べてから発表し合うもの、両方が含まれています。そのニュースに関してだけでなく、今後似たような話題に接したときにも意見を述べるができるよう、このアクティビティで仕上げを行います。

Background Information

ニュースでは、必ずしもすべての事柄が説明されているとは限りません。ニュースの核となる事柄で、かつニュースの中ではあまり詳しく説明されていないことに関して、このセクションでは補足しています。ニュースをより深く理解するのにも役立ちますし、**Follow Up** での話し合いの際にも使えるかもしれません。

Behind the Scenes

ニュースに関連することではありますが、**Background Information** とは異なりここではニュースの核となることではなく、話題が広がる知識、教養が深まる知識を取り上げました。肩の力を抜き、楽しんで読めるような内容になっています。

- ・各ユニットで取り上げたニュース映像はオンラインで視聴することができます。詳しくは巻末を参照ください。
- ・テキスト準拠の Audio CD には、各ユニットのニュース音声と、ニュースを学習用に聞き取りやすく吹き替えた音声、Making a Summary を収録しています。



Contents

Unit 1	A Roman Basilica in Ancient London	1
	現代に甦るロンドンの古代遺跡 [2分13秒]	
Unit 2	Children's Garden in the Chelsea Flower Show	7
	子ども専用、秘密の花園 [3分24秒]	
Unit 3	StreetVet for Happy Pets	13
	ホームレスのペットにも獣医のケアを [2分27秒]	
Unit 4	Murals Bring Vitality to the Town	19
	壁画で町おこし [2分15秒]	
Unit 5	Coping with the Changing Weather	25
	異常気象がもたらす動植物への影響 [2分43秒]	
Unit 6	It's A-Level Results Day!	31
	苦難を乗り越え、大学へ！ [2分35秒]	
Unit 7	A Bleak Report on the Health Service	37
	崩壊する医療の現場 [3分15秒]	





Unit 8 A Farm for Women and Girls 43

農場で育まれる女性の友情 [2分42秒]

Unit 9 An Apprenticeship in Stained Glass 49

大学で伝える伝統工芸 [2分27秒]

Unit 10 Pollution from Roads into Rivers 55

大自然に忍び寄る公害の影 [2分49秒]

Unit 11 Artificial Intelligence Can Improve Our Health 61

人工知能で心臓発作を救う [3分06秒]

Unit 12 Satisfied or Dissatisfied with the Bus Service? 67

バスの利便性向上なるか [3分31秒]

Unit 13 The Increasing Price of University 73

イングランドで大学授業料が値上げへ [2分36秒]

Unit 14 A Bad Year for the Crops 79

悪天候で農作物が不作に [2分17秒]

Unit 15 Immigration Continues to Rise 85

新政府の移民政策 [2分29秒]



Map of The United Kingdom

正式名称は **The United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland** (グレートブリテン及び北アイルランド連合王国)。 **England** (イングランド)、 **Wales** (ウェールズ)、 **Scotland** (スコットランド)、 **Northern Ireland** (北アイルランド) の4国から成る連合国家です (2025年現在)。

※ () は本テキストでその地名、場所が登場するユニットを表します



Unit 1

A Roman Basilica in Ancient London

ロンドンの地下には古代ローマの遺跡がたくさん眠っています。発見された遺跡を保護し、現代の建造物と共存させながら街の歴史を伝えていくための取り組みが進んでいます。ニュースを見てみましょう。

On Air Date 12 February 2025

STARTING OFF

Setting the Scene

What do you think?

1. Are you interested in archaeology? Why, or why not?
2. What do you know about when the Romans were in Britain? Was it a happy time?
3. Do you know of any famous buildings or other structures in London? What are they?

Building Language

Which word (1-5) best fits which explanation (a-e)?

1. thriving []
2. bustling []
3. literally []
4. preservation []
5. impress []

- a. actually; without exaggeration or inaccuracy
- b. act or process of preventing damage or deterioration
- c. very healthy, successful, and developing well
- d. full of people and activities in an atmosphere of energy
- e. make somebody admire or respect you

WATCHING THE NEWS

Understanding Check 1

Read the quotes, then watch the news and match them to the right people.

- a. ... it would have been the beating heart of ancient London.
- b. ... frankly a, quite a remarkable emotion to experience.
- c. To actually see people using and enjoying, um, the space ...
- d. ... two and a half storeys high. It was a huge, huge Roman building ...



()



()



()



()

Understanding Check 2

Which is the best answer?

1. Where are the remains of the basilica?
 - a. They are on one of the streets of London's Square Mile.
 - b. They are in some filing cabinets in a Roman office building.
 - c. They are in the Museum of London Archaeology.
 - d. They are in the basement of an office building in London.
2. What was the size of the basilica?
 - a. It was 40 metres wide and 20 metres long, and two and a half metres high.
 - b. It was 400 square metres, and over two metres high.
 - c. It was 40 metres long and 20 metres wide, and over two storeys high.
 - d. It was almost as big as London.
3. Why did the redevelopers have to move the positions of the columns?
 - a. The building was about to be redeveloped.
 - b. They didn't want to destroy the special stones that they had found.
 - c. They wanted to be able to see people enjoying the space.
 - d. They planned to open the site to the public.

What do you remember?

4. Why was this discovery important for our understanding of the history of London?
5. What sort of place was the basilica two thousand years ago?
6. Is London's Square Mile the only place where we can find remains of Roman London?

Background Information

今から 2,000 年ほど前の紀元 43 年にローマ帝国は現在のロンドンを侵略し、その 4 年後の 47 年にロンドンディウム (Londinium) という都市を設立しました。その後数十年間でロンドンディウムは急速に拡大して 2 世紀までに人口が 6 万人に達し、2 世紀半ばに最盛期を迎えると、410 年にローマが撤退するまで存続しました。都市の中心部にある公会堂 (basilica) には、市の行政機関、裁判所、集会所、聖堂などがあり、政治や裁判における重要な決定が下されました。公会堂は敷地 2 ヘクタール、高さは 3 階建てで、当時のイギリスでは他に例を見ない大きな建物でした。また、公会堂にはサッカー場ほどの面積の広場もあり、商店などの建物が立ち並び、あらゆる人々が訪れる活気のある場所となっていました。

ニュースで取り上げられていたように、2023 年、ロンドンのグレイスチャーチ・ストリート (Gracechurch Street) の再開発に向けた解体工事において、その公会堂の一部が発見されました。1880 年代のリーデンホール・マーケット (Leadenhall Market) 建設の際、公会堂の土台の支柱が発見されたことから、考古学者たちは公共広場の大きな位置を把握してはいたものの、遺構が良い状態で保存されている可能性は低いと考えていました。しかし今回、長さ 10 メートル、幅 1 メートル、奥行き 4 メートル以上に及ぶ石灰岩やローマ瓦で作られた広大な基礎と壁が、奇跡的にほぼ無傷のまま発見されました。

こうしたロンドンにおける古代ローマ時代の遺跡はこれまでも度々発見されています。1987 年にはライムストリート (Lime Street) で公共広場の一部が発見されました。また、1990 年と 2001 年のロンドン博物館 (Museum of London) による調査では、公共広場の東側の構造物や床などが見つかり、2022 年にはロンドン考古学博物館 (MOLA: Museum of London Archaeology) によってモザイクで作られた霊廟が発見されています。これまで再開発に伴い発見された遺跡は博物館に移築するなどの方法が採られてきましたが、近年では新たな配慮がなされています。例えば、かつてミトラス寺院 (Temple of Mithras) が発見された場所をブルームバーグ (Bloomberg) 社が買収した際は、移築されていた遺跡を元に戻す決定がなされ、2017 年から一般公開が開始されました。今回発見された公会堂についても、ビルの開発業者はそれまでの建築計画を修正し、32 階建ての予定だったビルの高さを低くし、ガラスの床から遺跡を見渡せる展示スペースを建設すると発表しました。かつての利益重視の再開発に欠けていた、歴史を尊重した開発が模索されています。

参考:

<https://www.theguardian.com/uk-news/2025/feb/13/londons-first-roman-basilica-found-under-office-block>

<https://www.historic-uk.com/HistoryMagazine/DestinationsUK/Londons-Roman-Basilica-Forum/>

<https://www.smithsonianmag.com/smart-news/archaeologists-unearth-the-ruins-of-a-2000-year-old-roman-basilica-beneath-an-office-building-in-london-180986070/>

<https://www.npr.org/2025/02/18/g-s1-49317/london-roman-basilica-archaeology-roman-empire-discovery>

Watch the news, then fill the gaps in the text.

Rebecca Morelle: It's a (¹) modern city. But a rich history lies beneath the streets of London's Square Mile. Now, a new (²) goes back to the city's very beginnings. And it's in the (³) of this building.

5 **Morelle:** I mean, you can see this is definitely an office building.

Sophie Jackson, Museum of London Archaeology: Yes, yes.

Morelle: Filing cabinets.

Jackson: Absolutely.

Morelle: But here it is.

10 **Jackson:** It's the wall of the first Roman basilica. It's absolutely (⁴)!

Morelle: This is part of an important public building (⁵) in a large Roman forum.

Jackson: This was a building that was 40 metres long, 20 metres wide. It was probably two and a half storeys high. It was a huge, huge Roman building, and
15 it was designed to (⁶). It's a statement of their commitment to London and possibly (⁷) a change in the status of London and possibly even the fact that London is becoming the (⁸) of Britain.

Morelle: This is Guildhall Yard, which is the (⁹) of the modern city. And close to here was the Roman basilica and forum. Two thousand years ago, it would have been the beating heart of ancient London. It would
20 have been a (¹⁰)



25 place, with shops, offices, and a (¹¹) market. And in this building here was where all of the (¹²) political and administrative decisions were made.

Morelle: The building the basilica is under is about to be (¹³). The
30 discovery has meant a redesign to open the site to the (¹⁴).

James Taylor, Principal Architect, Woods Bagot: The columns have had to (¹⁵) move positions so you're not destroying all these, these special stones that we found in the ground. To actually see people using and

enjoying, um, the space, moving through the public hall and down into to see the, um, see the remains will be absolutely (¹⁶).

Morelle: Pockets of Roman London can be found all over the city, like here at the Temple of Mithras, which uses (¹⁷) to bring the archaeology to life.

Chris Hayward, City of London Corporation: The fact that Roman London is beneath your (¹⁸) is frankly a, quite a remarkable emotion to experience. And then you can walk outside, you can say, “Now look at the (¹⁹). Now look at the office blocks.” This is progress. But at the same time, progress combined with (²⁰).

Morelle: This (²¹) history has shaped what London is today. And now that history is being rediscovered, giving the city’s past a (²²) future. Rebecca Morelle, BBC News.



Notes

㊦ **2 Square Mile** 「スクエア・マイル」ロンドンの中心地であるシティ・オブ・ロンドン (City of London) の別名。面積が約 1 平方マイルであることからそう呼ばれるようになった ㊦ **6 Museum of London Archaeology** 「ロンドン考古学博物館」ロンドンをはじめイギリス全土において土地の開発や活用に関して考古学的見地から助言やサービスを提供している独立慈善団体。1973 年に設立されたロンドン博物館 (Museum of London) の都市考古学部 (DUA: Department of Urban Archaeology) が前身 ㊦ **18 Guildhall Yard** 「ギルドホール・ヤード」シティ・オブ・ロンドンにある屋外広場 ㊦ **31 Woods Bagot** 「ウッズ・バゴット」グローバル建築コンサルティング業者。1869 年にオーストラリアのアデレードで創業され、現在は世界各地で建築プロジェクトに携わっている ㊦ **41 the Temple of Mithras** 「ミトラス寺院」1954 年にシティ・オブ・ロンドンで発見された、太陽神ミトラスを祀った古代ローマの寺院

古代ローマ軍は、入植すると各都市のインフラを整え交通網を整備しました。ブリテン島のロンドンでも、市壁を巡らし水道を通して公衆浴場を作りました。ローマが撤退してロンドンと呼ばれるようになって、長い間その市壁は維持され、現在「シティ (The City)」と呼ばれる特別区を形作ってきました。18世紀頃から、人口や交通量の増加に伴って市壁は取り崩されるようになり、完全な形では残っていませんが、現存する部分は大切に保護されています。ローマ時代の遺跡はロンドンのいたる所に散在し、様々な文学作品にも描き込まれています。チャールズ・ディケンズ (Charles Dickens, 1812-70) の『デイヴィッド・カッパーフィールド』(David Copperfield, 1850) では、主人公がストランド街近くのローマ風呂の冷水に飛び込む場面が描かれていますが、これは著者自身の体験に基づいていると言われています。現在では壁に覆われて入ることはできませんが、格子の隙間から見ることができます。ロンドンではこのような遺跡を巡るガイドによるツアーが多く開催され、ガイドブックも多種刊行されています。

MOVING ON

Making a Summary

CD 1-04

Fill the gaps to complete the summary.

A wall of the first Roman basilica in Britain has been discovered by (a) in the basement of a London office building that was being redeveloped. The design of the redevelopment has had to be changed, and columns (l) moved so as not to destroy the special stones. The basilica, which will be opened to the public, was huge—40 metres long and 20 metres wide—and designed to (i). It reflects the fact that London was to become the capital of Britain. Two thousand years ago, it was a (t) place, with shops, offices, and a (b) market. It is a remarkable emotion to experience Roman London beneath your feet, and then go outside and see the skyscrapers of London. It is progress combined with (p).

Follow Up

Discuss, write or present.

1. Find out about some important archaeological discoveries in Japan.
2. The Romans left Britain in about 410 CE. Although they left behind long, solid roads and big, strong buildings and walls, in a few hundred years these were ruined, or even buried. Why do you think this happened?
3. Chris Hayward said, "The fact that Roman London is beneath your feet is frankly ... quite a remarkable emotion ..." What do you think he meant? Would you feel emotional if you could walk on Roman London? What about walking on an old Japanese castle?